

115th
Anniversary
創業 1903

65th
アトムブランド
誕生

ATOM LIVINTECH IR NEWS

第65期中間報告書
平成30年7月1日～平成30年12月31日



経営理念

「住まいの飾り職人」が
つくり出す独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」



社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要もない「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

株主の皆様へ



代表取締役社長 高橋 良一

第65期第2四半期累計期間の 業績についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第65期中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間（中間期）におきまして、当社の関連する住宅市場は、低水準にある住宅ローン金利や被災地着工の進展に加え、省エネ住宅補助金制度など政府による各種住宅取得支援政策が下支えしつつあるものの、人工不足をはじめ、建築資材及び地価の高騰を背景に住宅価格は高止まりを示しました。また、相次ぐ甚大な自然災害による経済的損失や工事の遅延、マンション着工の調整などが重石となり、更には一時的に拡大した賃貸住宅市場は適正化への兆しが出始めるなど、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもとで、当社は今期を初年度とする「第10次中期経営計画（第65期～第67期）」において掲げた「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」とのスローガンのもと、「将来の発展を支える経営基盤の確立と進化」を基本方針として、「内装金物（住まいの金物）の全般」を自社ブランドで網羅する「住空間創造企業」を目指し、全方位のお客様に対する積極的な営業活動に最大の努力を傾注するとともに、販売費及び一般管理費の圧縮など調整かつ管理可能な諸施策を講じつつ、独自の市場を形成しているソフトクローズ関連商品の拡充強化と販路拡大に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高53億55百万円（前年同期比0.0%増）、営業利益3億82百万円（前年同期比7.9%増）、経常利益3億93百万円（前年同期比7.6%増）、四半期純利益2億46百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

昨年10月に創業115周年を迎えた当社は、第10次中期経営計画のもと「ものづくり」の原点に立ち返り、創業以来の思い「独り歩きのできる商品を提供する」を全うし、115年の間に培ってきた価値観や行動規範などの伝統を承継しつつ、現状に安住することなく自らの変革にも果敢に挑み、本来の「企画開発型企業」として、より現場主義に徹した新技術ならびに新商品の開発に磨きをかけることはもとより、内装金物（住まいの金物）全般に目を向けた「裾野の広い商品開発」を推進してまいります。

組織の若返りを図るとともに、経営環境の変動に左右されにくい 事業基盤の構築に全社一丸となって取り組みました。

■ 第65期中間期の取り組みと業績について

度重なる自然災害による影響を受けつつも、営業設計グループと開発部の一体化で大幅な増益を達成することができました。

当中間期冒頭、西日本を中心に襲った7月豪雨による物流網の寸断、現在でも完全復旧がみられない8月の台風21号による近畿地方を中心とした被害の拡大、全道でブラックアウトが起きるなど深刻な被害をもたらした9月の北海道胆振東部地震など、当中間期は「昨年の漢字『災』」で表されたように、度重なる自然災害による影響を被った半年になりました。当社におきましても、いまだかつてなかったことですが、大阪事業所と札幌営業所が2日ほど、臨時休業せざるを得ませんでした。一方、物流業界においては、各社が就労環境の改善や働き方改革に取り組んだことで、集荷の締め切り時間や長尺物の引き受け制限など、これまでとは異なる制約が生じてまいりました。当社におきましては、こうした厳しい環境のもとながらも、ソフトウェア関連商品の拡充強化と販路の拡大に取り組んでまいりました。

商品戦略については、ソフトウェア関連商品の重点開発に取り組む一方、「LIVIN' ZONE」で展開してきた自由度の高い間仕切り商品が、大手需要家様に供給を開始するなど、今後の市場拡大に期待が持てる状況になってまいりました。こうした間仕切り商品は、営業設計グループと開発部が一体となった新たな開発体制で生み出された成果であり、当グループが営業的なフォローを積極的に行うことで着実に市場に浸透することができた商品でもあります。また、商品配送に制約が生じた長尺物の商品については、分割使用が可能な新接続金具をリリースすべく準備を進めてまいりました。

市場戦略におきましては、実際の商品をさまざまなシチュ

エーションで体験できる「LIVIN' ZONE」の拡大に取り組んでまいりました。これまで居住空間・保育施設や介護施設などの非居住空間・さらには収納空間とテーマ別に展開してまいりましたが、新たなアイテムの拡大を目指し、展示スペースの拡充を進めているところです。こうした提案型のスペースを拡大することで、これまで以上にお客様の需要を喚起する取り組みを強めてまいります。一方、西日本市場の強化と自然災害のリスク分散を図る観点から推進してまいりました広島市内の物流拠点ですが、2019年秋の竣工を目指して着工いたしております。

情報システム戦略については、当社ホームページ内の「atom 動画ギャラリー」におきまして、当社の主力商品について、単なる商品紹介に留まることなく、建築現場で施工方法や施工手順を確認できる動画コンテンツの拡充に努めてまいりました。また、当社の情報発信基地としての性格を持つアトムCSタワーでは、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてその立地を生かし、「新虎通り(環状2号線)」を中心に展開されるさまざまなイベントに、地域密着の観点から協力・参加してまいりました。

激動の当中間期ではありましたが、売上高については当中間期を襲った自然災害の影響を受け計画値にわずかながら及ばなかったものの、利益面では目に見える形で拡大することができました。こうした増益要因としては、営業設計グループと開発部が一体となった商品開発を進め、価格競争に陥ることなく他社と競合しない商品を拡大することができ、当社商品の優位性をお客様にしっかりと訴求できたことがあげられると思います。こうした意味からも、第10次中期経営計画の初年度としては思惑通りの成果を上げることができたと考えております。

■ 中長期的な観点からの取り組みについて

不透明な経営環境のもとでも、着実に収益を確保できる「将来の発展を支える経営基盤の確立と進化」に取り組めます。

第65期を初年度とする第10次中期経営計画ですが、世代交代による組織の若返りをメインテーマに、「伝統」を活かしながら「変革」にも果敢に取り組むことを目指し、「自己改革を追求する企業風土の承継と発展」をスローガンに掲げております。中でも重要なことは、中堅以上の社員が現場の中で身をもって、創業以来の価値観や行動規範を次世代へと引き継いでいくことです。極めて厳しい経営環境の中で迎えた初年度ではありましたが、当中間期の業績に反映されたように、これまでに取り組んできた内部固めを目指した組織づくりが期待通りに機能していると考えております。とはいえ、下期においては今年10月に予定されている消費増税や米中貿易摩擦の激化など、不透明な状況が続くものと予想されております。消費増税については、過大な駆け込み需要と過度の反動減はないものと思われませんが、いずれにいたしましても、当中間期の業績に甘んじることなく、経営環境の変動に左右されにくい事業基盤の確立に向け、あらゆる施策を講じて第10次中期経営計画の基本方針であります「将来の発展を支える経営基盤の確立と進化」に粛々と取り組んでまいります。一方、前期におきまして、現地生産の強化と東南アジア市場での販売を目的に設立いたしました子会社「ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED」ですが、すでに取手や引手など、シンプルな商品の生産を開始し、上海阿童木建材商貿有限公司を通じて日本への輸入を開始しております。今後についても、新たなものづくり体制の確立と、価格競争力の向上を目指し、ベトナム子会社を積極的に活用していきたいと考えております。

■ 株主の皆様へのメッセージ

安定した経営基盤の確保と株主利益の向上に努め、株主の皆様へのご支援に報いることを目指してまいります。

当社では、より多くの投資家の皆様へ、当社の存在意義と事業内容をご理解いただくため、ホームページを通じたタイムリーな情報開示をはじめ、毎年夏に開催される「日経IR・投資フェア」への出展など、株主の皆様との密接なコミュニケーションに努めてまいりました。また、株主の皆様とのコミュニケーションを深めたいとの観点から、アトムCSタワー8階に、IR情報を提供する「IRフロア」を開設いたしております。株主の皆様におかれましては、お近くにお越しの際はお立ち寄りいただければ幸いに存じます。

株主の皆様を大切にしている当社では、将来的な事業投資を含めた安定的な経営基盤の確保と株主利益の向上に努めてまいりました。そのうえで、株主の皆様への配当でございますが、第10次中期経営計画で「年間配当金は利益水準のいかんに関わらず、最低でも1株当たり30円の配当を維持する」とともに「5年を節目とする周年記念配当」の実施を目標に掲げております。当中間期の配当金については業績を勘案しつつ、創業115周年の記念配当とあわせ1株当たり17円50銭とさせていただきます。期末配当金についてはアトムブランド誕生65周年の記念配当とあわせ1株当たり17円50銭を予定いたしております。また、今年2月8日に開示いたしました通り、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待制度を導入することいたしました。

今後も当社は、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き、当社の経営方針ならびに経営政策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「2018 秋の内覧会」を開催いたしました。

2018年10月、お客様に当社の新商品をご紹介します、商品化にあたってさまざまなご意見やご要望をお伺いする「秋の内覧会」を、大阪の「アトム住まいの金物ギャラリー大阪(10月11~13日)」と東京の「アトムCSタワー(10月18~20日)」で開催いたしました。今回の「内覧会」では、品揃え豊富な引戸・折戸金具に加え、空間を有効に活用できる移動間仕切り金具などの施工例をご覧いただきました。東京会場では、高齢者向け施設の居室や幼稚園・保育園など園舎の室内をイメージした「非住宅エリア」と、新製品を用いた新たな使用方法の提案を「LIVIN' ZONE」に追加して、実際の住空間に近い状態で商品を展示いたしました。



3連引戸ダブルオープン **NEW**

セーフティストッパーとフランス落としの組み合わせで間仕切りの自由度がアップ!

さまざまなシチュエーションに使用できる3連引戸。従来は戸先側の扉からの出入りに限られていましたが、今回の商品は中央の扉をフランス落としで固定すると、戸尻側からの出入りも可能なダブルオープン仕様になります。引戸を固定するだけの操作で、室内を「間仕切る」ことや「開放する」ことが簡単に実現します。



2way ソフトクローズ戸袋対応 **NEW**



これひとつで戸先・戸尻どちらでもソフトクローズが作動! 2本のダンパーを一体化することでコストパフォーマンスも向上。

戸先側だけでなく、戸尻側にもダブルでソフトクローズが効く新しいタイプ。これまでは両側にソフトクローズを設置する場合、ダンパーが2本必要でしたが、今回の商品はダンパーをひとつにして一体化することでコストダウンに成功。これにより、戸幅が狭くても2wayでソフトクローズできるメリットを実現しました。

アウトセット引戸鎌錠 [FK4560] **NEW**

高まるリフォームニーズに対応! お部屋や収納の引戸を指1本で施錠・開錠できるアウトセットの鎌錠

アウトセット引戸の戸先に設置できる鎌錠。リフォーム需要の高まりの中で、アウトセット引戸用の鍵が欲しいという要望に応えて開発された商品。操作つまみを上下させるだけでスムーズに施錠や開錠が可能。シルバーと黒の2色があり、バックセットは45~60mmの範囲で自由に設定することができます。



株主・投資家の皆様との密接なコミュニケーションを目指し、「日経IR・投資フェア2018」に出展いたしました。

当社では、株主や投資家の皆様との密接なコミュニケーションを目指し、当社ホームページの「株主・投資家向け情報サイト(https://www.atomlt.com/ir/)」でのタイムリーな情報提供をはじめ、アトムCSタワーに「IRコーナー」を設置するなど、積極的なIR活動を展開してまいりました。こうした取り組みの一環として、当社の認知度や知名度の向上を目指し、2018年8月31日、9月1日の両日、東京ビッグサイトで開催された「日経IR・投資フェア2018」に出展いたしました。当社の展示ブースでは、暮らしと密接に関わる当社の事業内容や商品を映像でもご紹介いたしました。

また、当社では、ホームページや「日経IR・投資フェア」をはじめとする企業説明会などを通じ、株主や投資家の皆様とふれあう機会を設けてまいりましたが、当社事業の情報発信基地でもありますアトムCSタワー8階においても、当社の事業内容をよりよくご理解いただくための「IRフロア」を開設いたしております。今後とも当社では、株主や投資家の皆様とのコミュニケーションを活性化しつつ、当社のファンづくりを推進するとともに、さまざまな機会をとらえて積極的な情報発信に努めてまいります。



株主優待制度を導入いたしました。

当社では、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社事業へのご理解を深めていただき、当社株式への投資魅力を高めるとともに、中長期的に株式を保有していただくことを目的に、株主優待制度を導入して継続的に実施することといたしました。

対象となる株主様

- ① QUOカード 毎年6月末日の当社株主名簿に記載または記録された100株(1単元)以上かつ1年以上継続して保有する株主様、または300株(3単元)以上保有する株主様
- ② 当社関連商品の特別割引 毎年6月末日の当社株主名簿に記載または記録された100株(1単元)以上保有する株主様

優待内容

保有株式数	継続保有期間および優待内容		② 当社関連商品の特別割引
	① QUOカード 1年未満	1年以上	
100株(1単元)以上 300株(3単元)未満	対象外	500円分	当社が指定する商品を定価の20%割引にてご提供
300株(3単元)以上 500株(5単元)未満	1,500円分	2,000円分	
500株(5単元)以上 1,000株(10単元)未満	2,500円分	3,500円分	
1,000株(10単元)以上	5,000円分	7,500円分	

贈呈時期

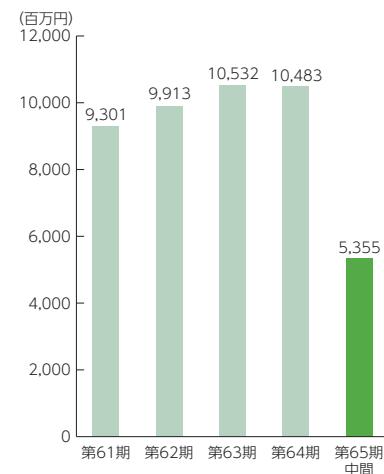
毎年9月下旬の定時株主総会終了後の「定時株主総会決議ご通知」とともに発送を予定しております。

開始時期

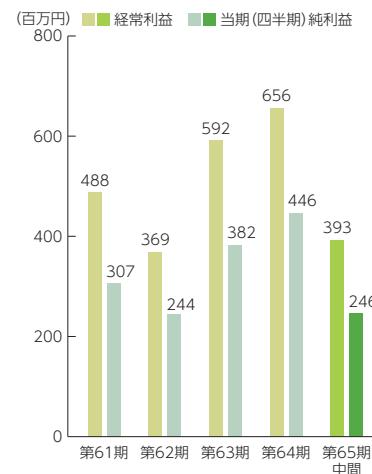
2019年6月末日時点で対象となる株主様から開始いたします。

*「継続保有期間1年以上」とは、毎年6月末日の当社株主名簿に記載または記録され、かつ6月・12月末日の株主名簿に同一株主番号により3回以上連続して記載または記録された株主様といたします。
*当社関連商品の特別割引については、対象となる株主様へ「20%割引券兼用(ハガキ)」の発送を予定しております。

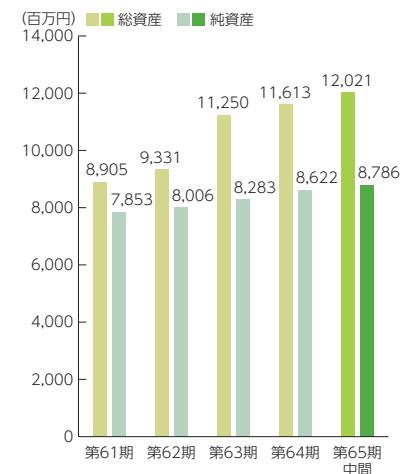
● 売上高



● 経常利益／当期(四半期)純利益



● 総資産／純資産



● 主要経営指標

	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期中間
売上高営業利益率 (%)	4.8	3.2	5.4	6.0	7.1
総資本営業利益率 [ROA] (%)	5.0	3.5	5.6	5.5	3.2
自己資本利益率 [ROE] (%)	4.0	3.1	4.7	5.3	2.8
流動比率 (%)	743.0	576.0	289.4	286.7	264.4
固定比率 (%)	44.2	44.2	43.9	47.0	50.5
自己資本比率 (%)	88.2	85.8	73.6	74.2	73.1
1株当たり純資産額 (円)	1,968.4	2,006.7	2,076.1	2,161.2	2,202.3
1株当たり当期(四半期)純利益 (円)	77.1	61.2	95.8	112.0	61.9
1株当たり(中間)配当額 (円)	25.00	25.00	30.00	30.00	17.50
配当性向 (%)	32.4	40.8	31.3	26.8	28.3

※第65期より「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を適用したため、第64期については遡及適用後の数値を記載しております。

単位：千円 (千円未満切り捨て)

科目	期別	前第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年7月1日 至平成30年12月31日)	前期 (自平成29年7月1日 至平成30年6月30日)
売上高		5,355,249	5,355,668	10,483,546
売上原価		3,897,235	3,878,428	7,621,778
売上総利益		1,458,014	1,477,240	2,861,767
販売費及び一般管理費		1,104,000	1,095,086	2,231,673
営業利益		354,013	382,154	630,094
営業外収益		11,829	11,387	26,430
営業外費用		340	184	493
経常利益		365,503	393,357	656,031
特別利益		—	—	—
特別損失		421	274	630
税引前四半期(当期)純利益		365,081	393,083	655,400
法人税、住民税及び事業税		135,635	145,195	208,650
法人税等調整額		583	914	△156
四半期(当期)純利益		228,862	246,973	446,906

四半期
損益計算書

Point

営業利益

売上総利益率が向上し、着実に利益を確保することができたことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前年同期比28百万円の増益となりました。

四半期
貸借対照表

Point

現金及び預金

増減の詳細につきましては、
キャッシュ・フロー計算書の
コメントをご参照ください。

Point

その他（純額）

広島市内の物流・営業拠点開
設に向けた建設仮勘定の計
上などにより、前期末に比べ
125百万円の増加となりました。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成30年6月30日現在)	当第2四半期 (平成30年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金		4,350,228	4,279,445
受取手形及び売掛金		2,610,051	2,647,878
有価証券		100,720	100,350
商品		478,708	515,370
その他		26,293	43,583
貸倒引当金		△261	△264
流動資産合計		7,565,739	7,586,362
固定資産			
有形固定資産			
建物（純額）		930,254	918,717
工具、器具及び備品（純額）		134,435	142,310
土地		1,161,285	1,161,285
その他（純額）		7,463	132,756
有形固定資産合計		2,233,438	2,355,070
無形固定資産			
投資その他の資産			
投資有価証券		1,611,631	1,883,233
その他		147,456	156,853
貸倒引当金		△149	△293
投資その他の資産合計		1,758,937	2,039,793
固定資産合計		4,047,941	4,435,122
資産合計		11,613,680	12,021,485

※当期より「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を適用したため、前期については遡及適用後の数値を記載しております。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成30年6月30日現在)	当第2四半期 (平成30年12月31日現在)
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金		675,347	768,571
電子記録債務		1,625,833	1,742,086
未払法人税等		132,824	155,366
製品補償引当金		47,109	37,348
その他		157,806	165,599
流動負債合計		2,638,921	2,868,972
固定負債			
退職給付引当金		149,350	157,477
役員退職慰労引当金		200,095	205,720
その他		2,600	2,600
固定負債合計		352,046	365,798
負債合計		2,990,967	3,234,770
(純資産の部)			
株主資本			
資本金		300,745	300,745
資本剰余金		273,245	273,245
利益剰余金		8,057,478	8,244,605
自己株式		△64,518	△64,518
株主資本合計		8,566,950	8,754,076
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		55,762	32,638
評価・換算差額等合計		55,762	32,638
純資産合計		8,622,712	8,786,715
負債純資産合計		11,613,680	12,021,485

四半期
キャッシュ・フロー
計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目	期別 前第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年7月1日 至平成30年12月31日)	前期 (自平成29年7月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	287,418	505,162	677,589
投資活動によるキャッシュ・フロー	△312,926	△516,047	△542,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59,938	△59,892	△119,815
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△4	0
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△85,441	△70,782	15,182
現金及び現金同等物の期首残高	4,335,045	4,350,228	4,335,045
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	4,249,604	4,279,445	4,350,228

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益393百万円、仕入債務の増加額222百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、法人税等の支払額123百万円等によるものです。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

商品開発の金型及び広島市内に物流・営業拠点を開設するための設備投資など有形固定資産の取得による支出213百万円、投資有価証券の取得による支出301百万円等によるものです。

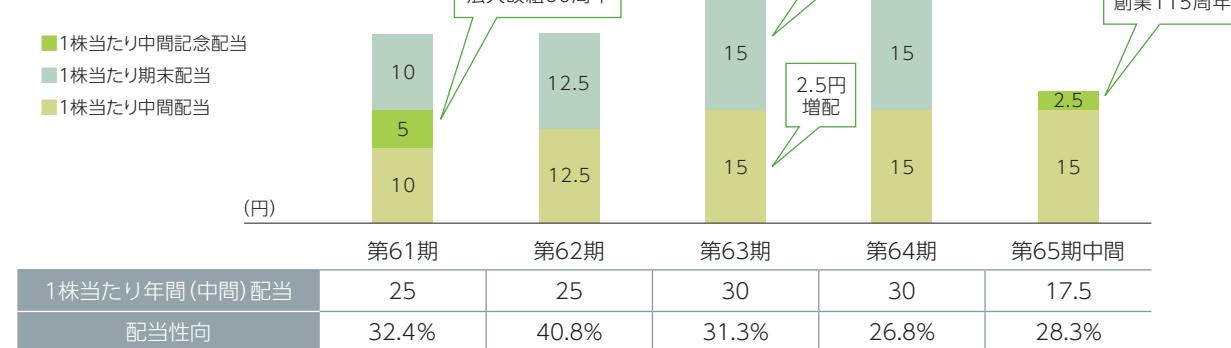
Point

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額59百万円によるものです。

配当状況

● 1株当たり配当状況



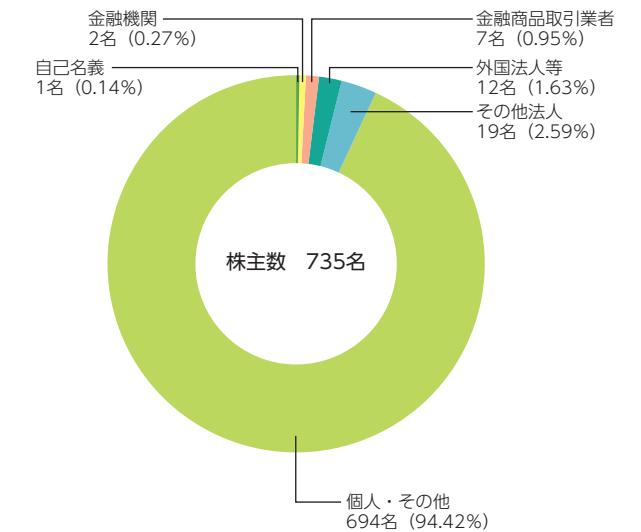
株式の概要

● 株式状況 (平成30年12月31日現在)

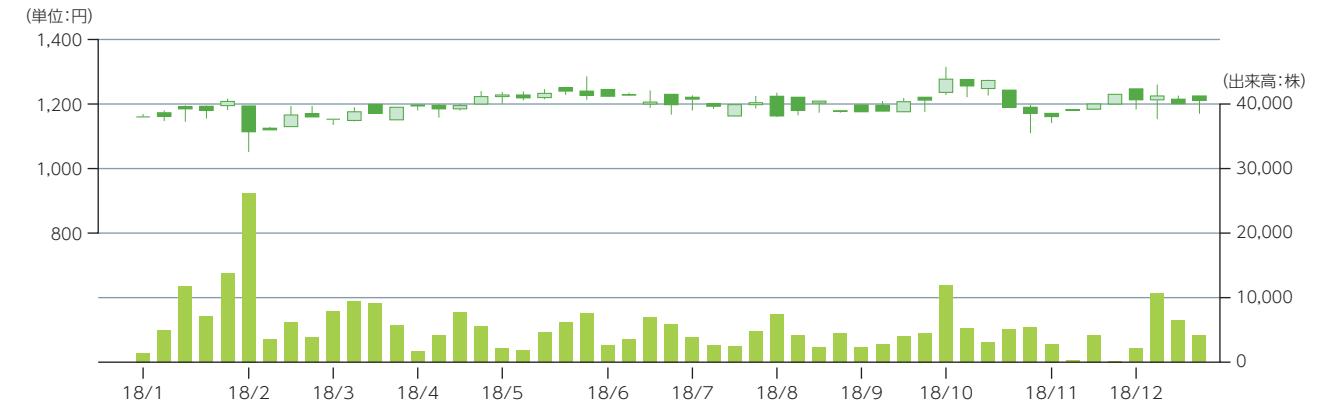
発行可能株式総数 15,420,000株
 発行済株式の総数 4,105,000株
 株主数 735名
 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
高橋快一郎	500,000	12.18
アトムリビテック取引先持株会	408,900	9.96
高橋良一	290,000	7.06
アトムリビテック従業員持株会	286,860	6.98
高橋壽子	157,000	3.82
大塚李代	118,000	2.87
アトムリビテック株式会社	115,153	2.80
磯川産業株式会社	81,500	1.98
岡崎衛	74,800	1.82

● 株主の所有者別分布状況 (平成30年12月31日現在)



株価および出来高の推移



会社概要 (平成30年12月31日現在)

商号	アトムリビングテック株式会社
創業	明治36年
設立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱UFJ銀行 株式会社三井住友銀行
従業員数	123名 (嘱託5名・パート13名含まず)

役員 (平成30年12月31日現在)

代表取締役社長	高橋良一
取締役副社長	高橋快一郎
取締役	森内弘
取締役	上田嗣夫
取締役	鈴木英光
取締役	伊藤友悌
常勤監査役	金子豊
監査役	奥水洋一
監査役	高島良樹

事業所一覧 (平成30年12月31日現在)

本社	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号	TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター (商品本部)	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号	TEL 048-922-5551
札幌営業所	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F	TEL 011-748-3113
前橋営業所	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号	TEL 027-223-2651
広島営業所	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9	TEL 082-291-4235
アトムCSタワー	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 アーバンスタイル事業部 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館	TEL 03-3437-3673 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5	TEL 06-6821-7281

海外拠点 (平成30年12月31日現在)

子会社: ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム社会主義共和国)
子会社: 上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

ホームページも是非ご覧ください。

<https://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
さまざまなコンテンツをご用意しております。是非ご覧ください。



シリーズ企画

アトムCSタワー

最前線 SPECIAL ISSUE



アトムCSタワー1階ギャラリーショップ KANAGU は、生活文化にこだわりを持ち、心豊かな暮らしを求める人々が、職人の技によるインテリアグッズや日用品を実際に手にとって体感し、購入することができるギャラリーショップです。

ギャラリーショップKANAGUのコンセプトは、モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ「暮らしの飾り金具」。画一的な大量生産・大量販売・使い捨て的商品ではなく、職人の魂や技と、生活者の暮らしの美学が出会い、対話するスローショッピングを目指しています。素材感、デザイン、仕上げの隅々にまで職人のこだわりが、ぎゅっと詰まった日用品やインテリアをセレクトしました。職人が紡ぐ「モノ語り」に耳を傾けて、あなたのお気に入りやゆっくり、じっくり見つけてください。



波佐見焼と博多曲物の2つの伝統工芸を組み合わせたカップで、素材が持つ機能性、女性でも男性でも持ちやすいサイズ感、口当たりの良さ、和洋問わず、どのような空間でも様になるデザインなど、時や場所を選ばない使いやすさを追求した商品です。特定の専用カップではなく、フリーカップとしてデザインしているため、冷たい麦茶やビール、日本酒や焼酎はもちろん、温かい煎茶やコーヒー、お湯割りや白湯にもお奨め。磁器の色は、白・緑・茶・ピンクの4色からお選びいただけます。

サイズ 高さ：約80mm/容量：180cc 価格 5,500円(税込み5,940円)



特別展示 「KANAGU つなぐ地域《福岡》」を開催

異国の文化と日本の文化が交わる場所で、芸術の才能に秀でた著名人を数多く輩出してきた《福岡》で活躍する作り手にスポットを当て、魅力的なプロダクトを紹介する「KANAGU つなぐ地域《福岡》」を、2018年10月18日から11月30日まで、アトムCSタワー1階ギャラリーショップ KANAGUで開催いたしました。



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住まいの飾り職人

ATOM
LIVINTECH

アトムリビントック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600 (大代表)
ホームページ <https://www.atomlt.com/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

